

第7章 ●補 講● 198

- 理由は論理の連結部 198
- パラグラフフリーディングで論点を見つける 202
- 小論文の点数はどうやって決まっているのか？ 204
- 全体構成イメージ 206
- 採点者は受験生の意見を拝聴したいとは少しも思っていない 208
- 文章の材料は3つだけ 210
- 専用は考えない 212
- 論じなさいとは、理由を述べなさい、課題文の論点を踏まえなさいということだった 214
- 書き方を教えてもらっていても問題は解決しない 216
- 世界一の頭脳集団 218
- 60人の生徒がみんな同じデータを得て別の結論に至る 220
- 慶應を受験する人（SFC受験生）へ 特殊な問題が出題される大学を受験する人へ 222
- 《質問》 論文の基本は序論・本論・結論と聞きました。 224
- 3段落構成で書くのがいいのかそれとも4段落構成のモンイリケツで書くのがいい

いのかどちらがいいのでしょうか？

《質問》 現代文風の問題にはどう対処すればいいのでしょうか？  
225

●この本をどう活用するか？●  
228

# 合格の秘訣

慶應義塾大学SFCダブル合格の講師が明かす衝撃の事実  
～読むだけで点数が上がる理由～

その理由は、例えばこんな事が書いてあるからです。

- 超シンプルなお論文の書き方で誰でもスイスイ書けるように
- 真面目な正直者がバカをみる理由1～5
- 採点官の本音（だってワシめっちゃ詳しいもん）
- 解法と公式
- 小論文の正解の探し方
- ガチガチの型にはめて書くな！
- 論理というのは不完全なもの
- 論理的に相手を説得する事を考えると不合格になる
- 小論文は誰でも短時間で得点が大きく伸びる
- 小論文には合理的な得点UP法が存在する
- 文章力なんて必要ない
- 考えるな！ 感じる！
- 合格テクニク
- どんな問題が出ても高得点を取る本質
- どんどんスラスラ書く事ができる秘訣
- 小論文なら逆転できる！
- 日本で誰も言っていない小論文のテクニク
- 小論文はなるべく早く手をつける方が絶対に得
- 新聞を読み！ は最高のアドバイスじゃない
- 小論文は実は楽しい
- 女の子の『スキ』の意味



合格へ	
第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

私が、周囲が驚く予想外の結果を出したように……。本書が、「合格の救いの手」を差し伸べる。

そう、私は文章が下手なくせに、もっとも過酷な小論文試験を課すので有名な慶應義塾大学SFCにダブル合格した。ほぼ満点ダブル合格。いったいどうやって!? 答えは、小論文技術。この本にあるのは、書き方のノウハウではない。そもそも文章力≠高得点ではない。

私（筆者）の文章はなんて未熟なんだ！  
 （くやし涙が止まらないほどに、私は未熟者である）  
 でもね。その私が、あなたを 牛山式の小論文解法で……  
 高得点で合格！ させる事ができると確信している。

## 第1章 ○予備知識○

これからこの本の中にちりばめられた、非常識な小論文の全世界、つまりほぼ全てのノウハウをお見せしよう。では、『ハイ、スタート!』

(試験会場) あなたの小論文を書く手が止まらない……。チツチツチツ……。静寂の中、

時間は流れる。周りを見渡すと、出題された問題に冷や汗を書いている受験生でいっぱいだった。し・か・し……。見える! 顕微鏡で拡大して見るようにはつきりと何を書けばいいのかが分かる。

『ハイ。カ——ット——』(そこまで!) これは試験会場でのあなたの姿だ(もちろんテレビや映画の撮影をしているのではない。これを現実にしようというお話だ)。

試験時間は60〜90分。この時間の間に、何ができるかで、点数は決まるのか……。? 違う。本当は、もうその瞬間には勝負は決まっているんだ。他のテストと同じように、勝敗はほぼ決まっている。試験を受ける前の準備の段階で。本書を読んだあなたは、単に書き方が分かるというレベルをはるかに超えて、書く手がとまらない……。そんな経験をする事になるだろう。本書は書き方の本ではなく、書く事ができるようになる本だ。

試験本番のその瞬間! に役立つ本である。えっ、書き方が分からない? 本書があればもう大丈夫。この本があなたに全部、教えてくれる。なぜなら、(もう一度言うが) この本は書き方の本ではなく、あなたが、書く事ができるようになる本だからだ。他の本と同じように見えても全く違う。

小論文には、運命の分かれ道のようなものがある。小論文で合格する人とがんばっても落ちる人、正しい対策と、間違った対策、それはどういふものなのか? それを次の部分から詳しく解説しよう。



第7章  
実力UPの練習問題と解説

第6章  
テクニック編

第5章  
書き方編

第4章  
アウトプット編

第3章  
インプット編

第2章  
調査分析

第1章  
予備知識

# 運命の分かれ道



対策を  
バッチリした場合



甘くみていた場合

試験本番で問題用紙に書いてある文章

あなたの意見を自由に述べなさい

これは大嘘  
(つまり建前)

本当は・・・

試験を作った人の本音

適切な問題設定をして  
議論の時のように適切に主張してみなさい  
(適切だったら合格だよ〜ん)

大学教授の本音と建前を知ろう。

自由に書きなさいというのは、大人としてのタテマエ。

(先生の心の声)

きちんと適切に主張しなさい。私が考えている理想的な答えに近い方が合格の可能性は高いよ。まあでも反対意見でもしっかり書いていたら合格にするよ(まあ、そんなことめったにないんだけどね。ワッハッハー。だってワシこの問題にめちゃ詳しいもん)。

合格へ	
第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

小論文を書くのにあれこれ知っている必要なんて無い。シンプルな話だ。そして、ここで紹介しているのが、牛山式の小論文の解法。

よく小論文の試験では、「あなたの意見を自由に述べなさい」とある。

だから自由に書く事ができると思ってしまうので……。書き方に迷うんじゃないかな？

こう書けばいいんだ。2ステップで考えてみよう。

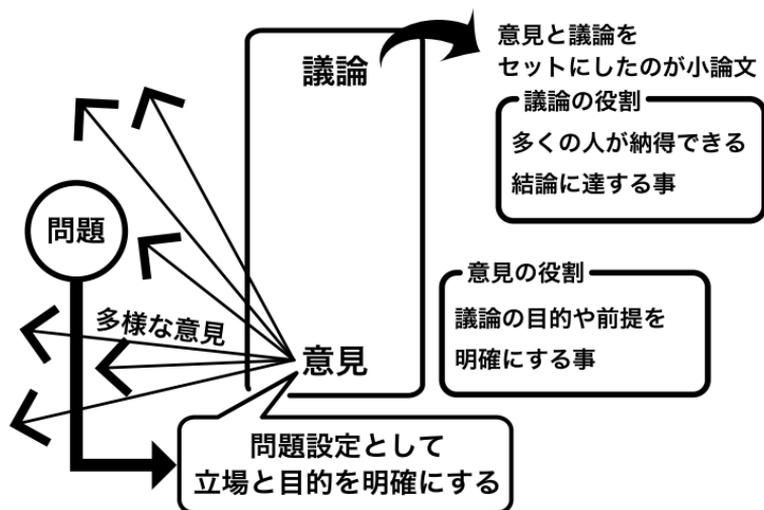
①問題を自分で設定する（これは後で詳しく説明する）

②議論の時のように主張する（これは後で詳しく説明する）

残念ながら今の小論文指導ではこの2つを適切にするところは見当たらない。

小論文の書き方は適切でも、根っここの部分が違うんだな。問題設定を適切にするにはどうすればいいんだろうか？ 主張を適切にするにはどうすればいいんだろうか？ ごちゃごちゃ言うより、次ページの図で説明しよう。論理は後で説明するけど、実は不完全なんだ。

## 小論文の全体像



STEP 1 適切に問題設定する

STEP 2 適切に持論を展開する

合格への道

合格へ	
第7章	実力アップの準備問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

## 誰でも小論文を書く事ができる牛山式小論文の解法へ説明

まあこれだけじゃあ分からないよね。この図は実は牛山が提唱している小論文の解法の一部。非常に画期的で、カンタン。そしてパワフルだ。説明しよう。

そもそも小論文って何よ？ こういう質問に牛山は、分かり易さを重視して、こう答える。

『意見と議論がセットになったもの』。言い換えれば、問題設定と、議論のような主張がセットになったもの……という事だ。なんでかっていうとね。問題設定をしない議論は、話がかみ合わないから意味が無いの。実りが無い。そこで皆に意見を言ってもらい、テーマとする問題設定をする。そして、その設定された問題を前提に主張するのが正しい主張の仕方なんだ。

これが分かっていると、とにかく誰かの主張に反論するようなやり方をとってしまう。自分が正しいんだ！ って叫ぶイメージかな。これは学問の世界では評価されない。反論によって説得力が上がってもそれはテクニクの1つなの。それだったら反論文っていう試験の名前のはずだよ。

学校でも教えてもらえない小論文の基本を押さえる。そしてテクニクを身につける。

そして、いいかな？ ここが大切だ。合格に直結した、実力をつける。そうすればね。何百回受験しても合格できる。

私は技術を身につけさせる専門家。あなたを合格させる。次にその証拠を見せよう。

何が出てても合格するには？

小論文技術を身につければ、

嫌いな英語・数学・社会の

失点をカバーして

合格できる可能性は十分にある

合格へ	
第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

大学受験のノウハウ本なら、合格以外に的をしぼるべきではない。それなら嫌われる事もあえて言おう。

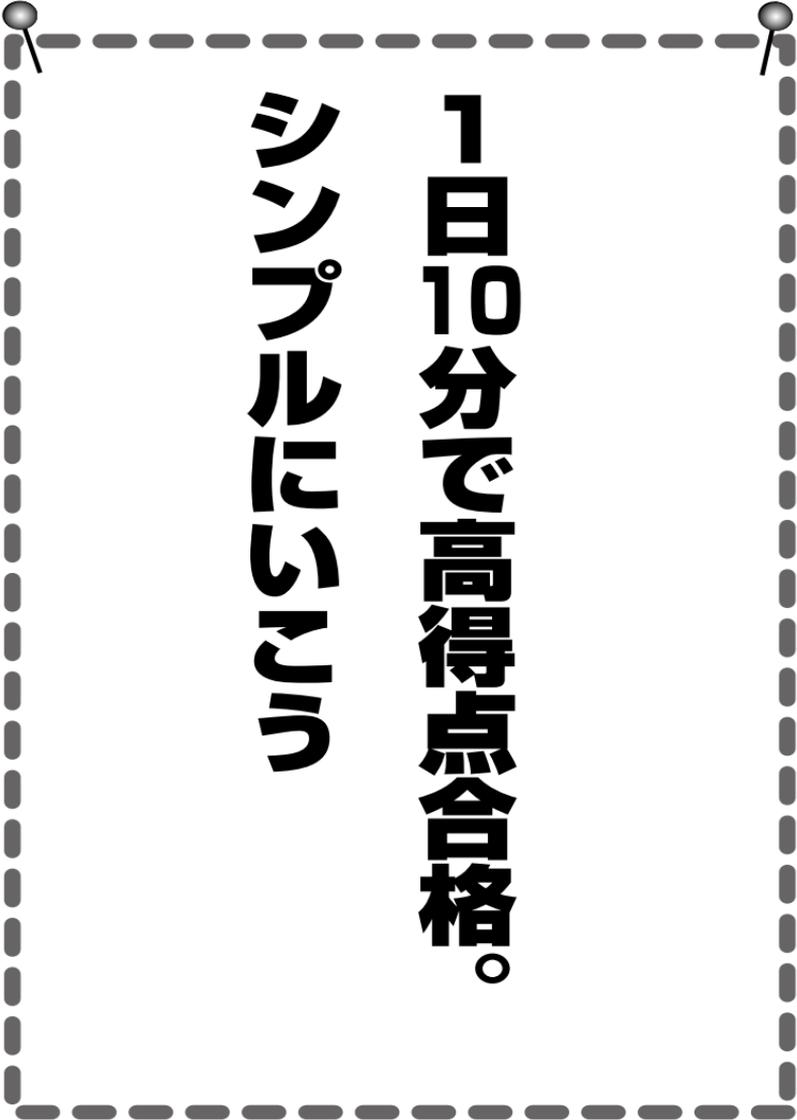
ロマンチストになるな……。お涙頂戴の文章を書くな！ いい子ちゃんになるなと……。でもそれと同時に、楽をしていいんだ！ 時間をかけるな！ もっと楽しく！ 議論は相手を論破することではない！ 手をつなぐように書け！ ……と何やらやけにいい人のようなアドバイスを本書ではしている。なんで？

それは、合格に真剣だから、本当に本当の所を伝える為だ。今の時代に『いい人』が行らない事くらい私だって知っている。だからできれば、無理してでも『ちよい悪』と言われたい。だってその方がカッコいい。キレイ事ばかり並べる人は今の時代に流行らない。

勘違いしないで欲しい。私は、いい人を演じる為に『和が大切』なんて言っているのではない。

本だから仕方が無いのである。こっぴどかしい思いをしても本当の所をあなたに伝えようとしているのだ。全ては合格に真剣だからだ。その為にこの本を今手に持っているはずだ。

小論文に関してはズバリ本当の事を言っている本がなぜか無いのである。何が出るかわからないから勉強したって意味が無いって？ 何が出て8〜9割取れるようにするのが小論文の勉強だ。



**1日10分で高得点合格。**  
**シンプルに学ぶ**



第7章 実力UPの練習問題と解説
第6章 テクニク編
第5章 書き方編
第4章 アウトプット編
第3章 インプット編
第2章 調査分析
第1章 予備知識

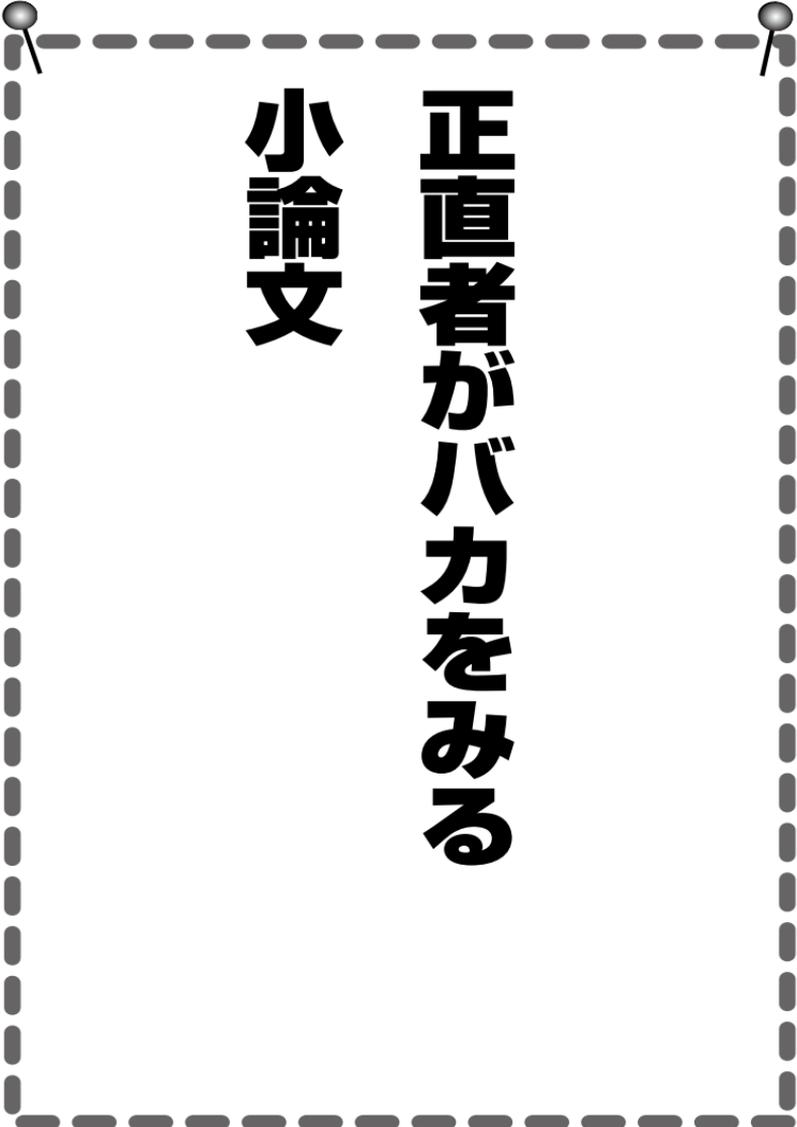
小論文は時間をかけると合格し易い。でもただ時間をかければいいってもんじゃない。時間のかけ方が問題。どんな作業にどれだけの時間を使うのか？ まずこれを知らなければいったいどうして小論文の勉強ができるのか？

川下りをするボートに例えてみよう。最初から最後までオールでこぎまくっても効果は薄い。川の流れが無いところでだけオールはこげばいいのである。時間を突っ込まなけりゃならんところには時間を突っ込む。

時間を節約すべきところはとことん節約するのである（この時が1日10分ね）。そして、英語や数学に時間を使う。それが合格への道である。

小論文のノウハウ書で英語や数学を勉強しろとはケツサクだと感じるかもしれないが、それを誰よりも痛感しているのは他でもない、今勉強しているあなただろう？

それが真実なのである。



**正直者がバカをみる**

**小論文**



第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

小論文には抜け道がある。……というよりは、正攻法なのに、真正面から小論文をきちんと指導する本がなぜか無い。だから今の時代は抜け道って言ってもいいんじゃないかな。

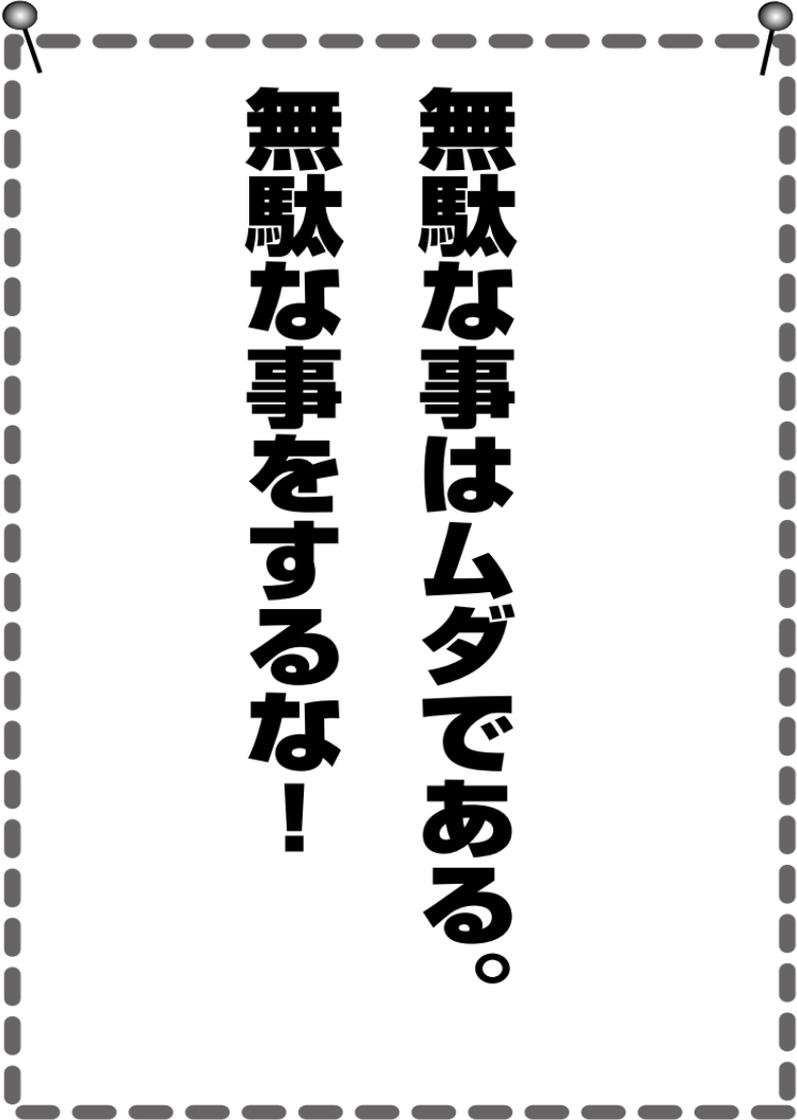
その為に小論文とは相手をやりこめるような風潮が広がってしまっている。相手を完膚なきまでに叩きのめすのが議論だあり。これは議論を全く知らない人のする事。相手を屈服させようとするのは子供のケンカ。

大人の議論とは、決められたルールを守り、順番を守り、基本的には対立相手とすら、同じ方向を目指す、意見の多様性を尊重しつつ、推論を披露するもの。そしてこの一連の作業はゼーんぶ、多くの人を前提とするもの。詳しくは後で話そう。

こういう事をきちんと理解しているから合格点が100回受験しても取れる。その上で私が言うアドバイスを守れば、最高得点レベルで合格可能だ。

私自身も落ちるといいう事が考えられないくらいに、試験終了時に合格を確信した。ミュージックスタートのスイッチをオンにして横ノリでゾロゾロ歩く中を笑顔にならないようにするのが難しかった。ニヤけて仕方が無い。なぜ小論文でそんな事ができるのかって？ そりゃ小論文の正解とは何かを知っているからだ。

えっ、もしかして正解が無いと思ってる？ じゃあどうやって採点するの?? できないでしょ。あるんだよ。正解が。小論文の勉強とはそれに向かって準備する事を指す。それ以上でもそれ以下でもないんだ。



**無駄な事はムダである。**

**無駄な事をするな！**



第7章 実力UPの練習問題と解説
第6章 テクニク編
第5章 書き方編
第4章 アウトプット編
第3章 インプット編
第2章 調査分析
第1章 予備知識

アナタは今何がムダで何が無駄ではないかを知っているだろうか？ 私は知っている。それを全部教えよう。

がんばる事は美しい。私だって努力は否定しないし、そのすばらしさも知っている。非効率的な中にこそ人間にとって大切な事があるだろう。でも、聞こえのいい精神論を振りかざしてこの本を読んでいるアナタにアドバイスなんぞしない。本当にアナタの事を思えば、正直に言おう。徹底してムダを省けと……。

多くの人が『勉強の為の勉強』をしている。『合格の為の作業』をする人はほんの一握り。だからあなたは、ごぼう抜き合格ができるのである。手段が目的になっちゃう人と、目的の為に手段があるときちんと理解している人の差はとてつもなく大きい。

サルでも書ける

## シンプルな牛山流 小論文

### 問題設定をする 第一段落

問題を読んで、〇〇は必要だろうか？など是非（いいとか悪い）について何かを言えるように問題を設定する。細かいやり方や例外については後で詳しく述べる。

### 意見を言う 第二段落

私は賛成だとか反対だとか、『〇〇を提案したい』などという風にして書いて、議論をする時の主張のように、書いていく。これは自分の意見を言うという事。短くまとめる。

### 理由を言う 第三段落

データや具体例を挙げながらどうして自分がそう思うのかという理由を書くところ。ここが良ければ点数がグッと上がる。

### 結論を言う 第四段落

したがって私は〇〇と考える。というように、結論を書く。短く書く。短くする事で相手に伝わりやすくなり、評価が上がりやすい。

### スイスイ書けるのに強力なのはなんで??

合格力のある構成

この牛山流の小論文は、合格に直結している。なぜか？ 私が合格しか考えていないからである。本当の事を教えちゃいましょうという事だ。そして合格させるためにはまず本質が最重要なのだ。

シンプルな事に反論する人は本質を無視しているから心配しなくて大丈夫。根っこの部分がきちんと理解できていなくてマニュアルに頼る人は応用が効かないから変則的な問題が出たら、おしまい。いちいち当てはまるパターンを頭の中で探すようじゃね……。試験本番で困ると予言しよう。なんの為に勉強やるのか？ 理想論じゃない、試験本番のあのシーンと静まり返ったその瞬間だろう。その先にあなたの夢がある。

それを実現させるのが本書の役割だ。それじゃあ今すぐ点数をアップさせるよ。次のページを見てみよう。

合格へ	
第7章	実力UPの準備問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

読みのがすあなたもついでに得点をUPさせよう。それじゃあ、指を折り曲げながら、心の中でいい確率で変えるのが使命。つまりあなた達を全員合格させるというゲンジツである。だから立ち

い記憶方法……。なんでこんな低レベルな記憶方法をとらにやならんのか？

理由はね、私は理論屋じゃあないからだ。理論は大切。でも現実（ゲンジツ）の結果を最も高い確率で変えるのが使命。つまりあなた達を全員合格させるというゲンジツである。だから立ち

- 第一段落 問題を設定する（これは後で詳しく説明するね）
- 第二段落 意見を言う（○○ダ。と主張するだけ 例外は後で説明する）
- 第三段落 理由を言う（私がそう考える理由はああです、こうですと言う）
- 第四段落 結論を言う（従って私は○○と考える）とか、『○○に反対だ』と言う）

モンイリケツ と呪文のように今すぐ15回唱えよう。

『ハイ』これで50%の得点（最低ライン）は間違いなくゲット！

モンイリケツっていったい何の事？ それは前のページの4段落構成の事。それぞれの段落に何を書くんだったか覚えていたかな？ そうそう、モンイリケツだ。

からブツブツ唱えるんだ。

モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……モンイリケツ……

よし、それじゃあ第一段落はなんだったかな？（思い出せなかったら前のページを見よう）

第二段落は何だったかな？

第三段落は何だったかな？

第四段落は何だったかな？

ここまでで50%の得点はまず間違いない。構成力っていうのが小論文では比較的大きい配点基準だ。

成長したあなた達に、今まで誰も言わなかった小論文の本質的な解説と、『分かる』じゃなく『できる』に変わる小論文の技術習得を公開していこう。次のページから小論文の落とし穴を解説していきたい。あなたは、他の受験生が落ちている落とし穴に落ちなくてもよくなるだろう。

**書き方を教えてもらっても不合格になる理由とは？**

**本書なら、あなたもできる！**

合格へ	
第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

告白しよう。小論文は簡単だ。本書の目的は、ズバリ、合格する小論文をあなたが書けるようになる事だ。本書は美しい小論文を書くことができるようになるノウハウ集ではない。

本書に書いてある通りにすれば誰でも合格小論文を書くことができるようになるノウハウ集ではない。この本は単なる情報集ではないからだ。いわゆるノウハウ本ではない。技術を身につける事ができるように、その身につけ方を詳しく暴露した本である。

今まで小論文の書き方という本はあった。しかし、小論文の技術の身につけ方という本は無かった。さらに誰でも使える高等テクニクに至っては皆無だ。

なぜ書き方を教えてもらっても不合格になるのか？ その理由は、『分かる』と『できる』は違うからである。分かったからといって、できるようには決してならない。

数学でこんな経験はないだろうか？ 先生に説き方を解説してもらおう。そして自分でやってみる……。しかしできない。解答を見て、ああそうだった……。と思うのである。これと同じ状態で試験会場に行けば、点数はとれないだろう。それと全く同じ。小論文の場合、答案の丸暗記は通しない。

したがって特別なタイプの記憶を頭の中に形成する必要がある。

この記憶は、『技術習得アドバイザー』である私の真骨頂の部分だ。

さて、ここまで読んでみて分かったと思うが、私は文章が下手である。しかし私は全く気にしていない。文章がうまくなくても小論文試験には受かるし、生活にはなんの支障もないからだ。

多くの人が小論文で点数を取るには、難しい言葉や言い回しをたくさん使えないといけないと

思っている。しかしそんなのは大嘘だ。模範解答なら必ず受かる？　もしそんな風に思っているなら、そんな先入観は今すぐ捨てて欲しい。

模範解答なんて合格していない人が書いている事がよくある。私は模範解答をバカにしているのではない。むしろ、こんなスゴイ文章を書けるんだなあと感じる。しかしこれが高得点の小論文かと言えば……、必ずしもそうではない。

文章が下手な私が小論文試験で最も対策が難しいとされる慶應義塾大学のSFCに余裕でダブル合格できたのは、私が合格する小論文の技術を身につけていたからに他ならない。周りでがっかりしている表情の人が多くいる中で、ブザー（ブザーと言うより、軽やかな音楽が流れる）終了時には合格を確信していた。

レシピ（方法）を知っていてもうまい料理は作れない。従ってあなたを料理の達人のように変える内容（技術を身につける）をこの本に書いた。この書籍は、今の時代なら秘伝の書と言っても過言ではないだろう。

### 小論文は実はめっちゃくちゃ簡単

小論文は本当に難しいのだろうか？　難しいと感じてしまう理由は何か？　それは分からない事が多いからではないだろうか？

●何を書いたらいいか分からない↓（これはこの本に書いてある）

合格へ	
第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

● どういう風にかいたらいいかわからない↓（これはこの本に書いてある）

● これなら合格という文章のイメージが湧かない↓（これはこの本に書いてある）

人間というのは、分からない事がある時に難しいと感じる。何もかも分かれば簡単に感じる。

例えば英語の勉強も同じだ。英語が苦手な人は、分からない事が多いから難しいと感じているのだ。階段を上るように1個ずつ処理していけば、誰でも英語は短期間でモノにできる簡単な科目だ。

私は英語の習得方法も多くの人に教えてきて、たくさんさんの喜びの声をいただいている。小論文も同じだ。階段を1段ずつ登ればいい。一度に登ろうとするからうまくいかないだけだ。分からない事が分かるようになれば、何も難しい事はない。

もう一度言う。小論文は簡単だ。

本書では、小論文を簡単にするためのあらゆる情報を詰め込んだ。

あなたは何も悩む必要はない。

本書を左に置く。

書かれている通りに1つずつこなす。

それだけだ。

その後にはオリジナルの工夫をすればいい。

補助器が必要なのは最初だけ。

## ■ ダメダメだった私

実を言うと、私も最初は小論文に苦手意識を持っていた。どうすりゃいいんだ？ どれを読んでもなんだか難しそうな事が書いてある。だから背伸びすりゃいいのかと思った。大人の真似事すりゃいいのかな？ なんてバカみたいに考えた。一応、がんばって書いてみるけどこれがまるだめ。もうひどいのなの……。はっきり言って落ち込んだ。

俺はこんなので合格できるのかと……。

しかし、ある時から私の小論文に対する考え方、そのものが劇的に変わり始めた……。その原因は読書。単に読書をしたからじゃあない。正確に言えば、大人の読む本を読みまくったからである。読んで読んで読みまくる……。

そうするとその世界には、およそ小論文とは全く無縁の様々な知識や情報があった。そしてそれを小論文に応用すると……。ピンゴ！ いくらでも小論文が書ける。

なんなんだこりゃ！

小論文のノウハウ本を読んでもみると、あまりにも大切な情報が欠落しすぎていて、問題と模範解答が並ぶ本がほとんどだった。

もっと最先端の手法を教えてあげる必要があるんじゃないのか？ 私はそう考えた。そして試験当日の日を迎えた。もうおかしんじゃないかというくらいに、鉛筆をカリカリやる。カリカ

合格へ	
第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

細かい事例などの解説は、そのつど、解説と同時に紹介していく事で体験してもらおう。自分の

- 本書の構成は次のようになっていいる。
- 第1章 予備知識……………真面目な生徒がバカをみる事例と、重要な予備知識
  - 第2章 調査分析編……………力をつける方向を調査する方法
  - 第3章 インプット編……………力のつけ方
  - 第4章 アウトプット編……………試験日までに知識を外へ出す方法・知識を生み出す熟成方法
  - 第5章 書き方編……………試験日当日、あるいはそれまでの練習の方法
  - 第6章 テクニク編……………大きく差をつけるテクニクを伝授

## 〈本書の構成〉

リじゃない。

カッカカッカカ——！ おいおい芸術家のデッサンじゃないんだからそんなに暴れるんじゃないよ……、というくらいに、書ける。

幾何学模様のようになった下書き用紙を教授がマジマジ見ていたくらいだ。

実はきちんと小論文を知り、その上でテクニクをマスターしていけば、誰でも合格答案が書けるようになるし、高得点を狙う事ができる。それでは、上達の方法を1つずつお話ししていこう。

頭の中でどういう解釈がなされるかを、説明とセットでされなければ、効果が半減するからである。

『分かる』と『できる』は違う。『できる』に変わる方法

私の職業は技術習得アドバイザーだ。私は直接人に教える際に、分かることができるといふ事は違うという事を痛感する事が多かった。

何かを教えてすぐく納得した顔をして、『ではやってみてください』と言うと、できない事が非常に多い。

私の経験とこの分野の見識から言えば、小論文はインプットの段階、つまり情報収集の最初の部分から細かく解説してその通りに実行してもらおう事が大切だ。そしてその記憶方法も解説する。さらに計画の立て方、戦略の立て方、も同様に詳しく解説する。それが済んで初めて、小論文の書き方をこの本では解説する。多くの人が、書き方に入るまでの部分が多いと言う。

しかしそうではない。書き方に入る前が重要なのである。そしてそれだけでこの本は終わらない。まだ誰も小論文の世界では言っていない、小論文試験の有効なテクニクを紹介していく。そして書き方だけではなくその際に頭に描くイメージまで事細かにこの本では説明する。なるべく小論文の技術を身につける事ができるように書いた。

もう一度言うが『分かる』と『できる』は違う。『できる』という事は、脳の中に何かをする

合格へ	
第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

為のなんらかの記憶が形成されているという事である。

## 素直で真面目な学生がバカを見る理由 その1

わたしだって、真面目な学生に結果を出して欲しい。努力家を応援するし、素直な学生はかわいいので、いい結果を出してもらいたいという親心のようなものも生まれる。

しかし……、残念だが現実の世界はそんなに夢のような世界ではない。多くの素直で真面目な努力家がバカをみているのである。例えば英語の勉強もそう。本当にいいやり方や原理を教わっていない為に、必死に努力するのに、不真面目な人間にごぼう抜きにされてしまうのである。

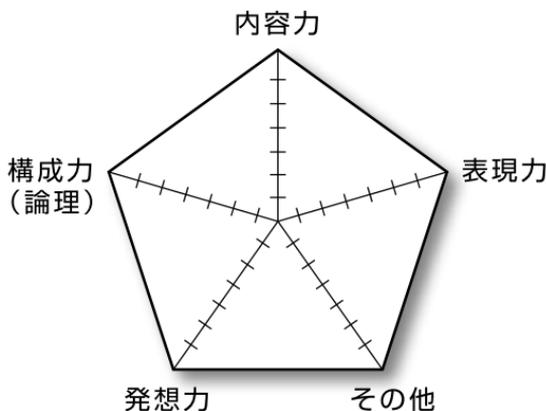
## 小論文は論理的に書くな!?

小論文は論理的に書くもので、作文ではありません。このような文章は正しいか間違っているかと問われれば、正しい。でも、論理的であることはそんなに重要ではない。

なぜならば、最低レベルと判断されるような文章であっても、論理的には一応書けている事が多いからだ。論理的に書けている度合いが70点の人と80点の人ではたいして得点に差は無い。それよりも、他の部分で差がついていると考えるべきだろう。

つまり、論理的に説明する事が正解ではないのである。小論文の正解は論理的な文章ではない。

## 小論文の得点はどこで決まる？ 主な配点要素



大学が求めているものが単に論理的な文章ではないという事だ。もちろん大学は独自の採点基準を公開はしていない。しかし、単純に考えて欲しい。あなたが大学の教授であったとして、単に論理的なだけの文章で合格にしたいと思うだろうか？

極端な例かもしれないが、次のような文章を書いて合格になるだろうか？

日本は核兵器を保有すべきである。なぜならば、日本は核を持つ国に囲まれているからだ。

中国、ロシア、アメリカ等周りの大国は全て保有している。日本国民の安全の為に日本は核を今すぐ準備し、いつでも発射できる態勢を整えるべきである。

バカだなあーと思われるでしょう。勉強不足だなあとはなかなか思ってもらえない（本当は単に勉強不足なだけだ）。

日本が核兵器を持つかどうかは、一応議論しないという姿勢はよくないというレベルで話がなされているが、この文章ではあまりに稚拙すぎて話にならない。論理的かもしれないが不合格の答案だ。

合格へ	
第7章	実力UPの準備問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

つまり、論理的であるという事は、全体的に見ればそれほど大きな合格要因ではないと言えるだろう。

次に多い勘違いを紹介する。

小論文は文章がうまいと合格だというものだ。『コラ!』と大声で叱りたいが、こういう論調は、後を絶たない。

なぜ大学側は小論文という名前で試験を用意しているのか? 『作文』とか、『批評文試験』とか、『意見提示文試験』となっていないのか? なぜ小論文なのかを考えてみよう。考えたかな?

それじゃあ、論文ってなんだろう? 論文って発表する時に、責任があるよね? ウソ八百で、発表するのが論文か? 自分の考えだけじゃあなく、世の中の真実に対して鋭く切り込んでいくってイメージがないかな?

それをみんなの前で発表する。責任があるよね?

そもそも人類にとって有益だと思えるような知識、情報、真実だと思われるもの、こういうものを発表するのが論文であって、『あの人は死んだ方がいい』というような個人的な意見を言うのが論文ではない。

……という事はつまり、こういう論文のイメージの小さいバージョンが、『小論文』なんだという事が分かるはずだ。小論文の試験では『自由に書きなさい』とある。しかし、この自由の対立概念が、責任なんだ。つまり大学は、君達が、責任を持った発言ができるのかなあという事を確認したい。いろんな方向からね。だからこそ、文章力も、点数になる。でも文章力だけじゃあ

ない。もっと根っこの部分。

責任を持った発言、そして、いい内容の発言を、多くの人の前でして（文章で多くの人に読ませて）、いい方向に社会を持っていく事ができる能力、そんな能力を見られていると思っただ方がいい。これは大学の社会的な役割に実は関係している。

大学というのは、教育機関であり、研究機関であり、そして同時に世の中をよくしていこうという、理念を持った機関だ。こういう社会的な役割がある。反社会的な大学なんて無い。だからそれにふさわしい人間が欲しいという事だ。

ではどうすれば、そういう小論文を書く事ができるようになるのか？

これからわたしが言うように1つずつ処理していけばあなたも合格できる文章を書くことができるようになる。

---

素直で真面目な学生がバ力を見る理由 その2

---

**模範解答は無視しろ！ こんな文章は私でも書けない**

多くの学生が模範解答を参考にしてしまう。なんだか難しそうだなあーなんて思っていないだろうか？

断っておくが、小論文の書き方なんて教わる前から分かるもんじゃない。小論文の基本的な書き方や、型にはめる方法以外はほとんどと言っていいほど、小論文の技術習得に関しては語られ

第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

てこなかったのである。

いきなり書けと言われて書ける方がおかしいし、そういう人は相当頭がいいだけだ。多くの人が模範解答を見て、びびってしまう。『む……、難しすぎる……』

こんな文章思い浮かばないんだよなあ、言葉の言い回し自体、聞いた事ないなあ、と感じないだろうか？

安心してほしい。私でも模範解答のような格調高い文章は書けない。それに文章のレベルが高いと、相手の反感を買う可能性が出てくる。文章の格調が高くて、内容が普通だと最悪だ。

このギャップがあると（文章ばかりかっこつけやがって中身のない文章だ）と思われる低い点数になるかもしれない。採点官の性格次第だが、可能性がいくらかあるのならそういう文章にするのは避ける方が賢明だろう。

## 小論文が書けない？ 自信が無い？ 当たり前だ！

小論文が書けないのを悩む必要は無い。最初から書ける方がおかしいのである。あなたは普通。そして、難関大学に小論文で合格する人たちも、天性の才能があった人というわけではない。

私が見知っているケースでは、かなり早い内から対策をきちんと立てていたとか、周りの人によく何度も見てもらっていたとか、毎日書いていた……、なんていう人だ。

つまり、【合格したのは小論文の勉強が必要だと思っていた人たち】と乱暴に一言で言えばなるだろう。小論文を書くには、頭の中に情報をきちんと入れることが大切だ。しかし、入れ方が問題である。

小論文の為の記憶方法は、丸暗記というよりは、理解型の記憶が適切だ。どんな事をどんな角度から聞かれても、適切に答えることができるという状態にする必要がある。その為の記憶方法は、【物事の関係】を丸ごと記憶するという方法がいい。

メモリーツリーという記憶方法を聞いた事がある人がいるかもしれないが、この記憶方法は小論文対策には非常に有効だ。どのように記憶していくかという具体的な事はインプット編で詳しく解説していく。まずは（書けなくちゃならないんだ！）という、先入観を取り除いて、リラククスしよう。

### 素直で真面目な学生がバ力を見る理由 その3

インターネットには情報が溢れている。だから地方の学生はインターネットを使って情報収集をする。そして掲示板で顔も見えない相手に質問をするのである。『僕は慶應の経済を目指しています。問題集はどれを使ったらいいでしょうか？』それに対する答え『逝ってよし』。

中には、真面目に返答している人もいるが、『僕は直前に○○先生の授業を受講しました』とか、『特に対策はしていないけど、合格だったよ。所詮才能じゃない？』という無責任極まりない発

合格へ	
第7章	実力UPの準備問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

言をする者もいる。こういう発言に動揺したり、一喜一憂する学生がいる。こんな馬鹿げたことはない。

## なるべく早い時期から対策を立てる必要がある 1日でも早い準備を！

小論文は、早めの対策が大切だ。なぜならば、脳の構造上、記憶の仕組み上、知識が熟成してあなた達の考えができるまでに時間がかかるからである。情報を入れたらすぐにそれは出せると思っている人は、完全に小論文を誤解している。社会の類の知識とは完全に違うのがこの部分なのである。本書は他の小論文ノウハウものとは全く違う。

その理由の1つがこの部分。単に分かるアナタではなく、小論文をスラスラ書く事ができるアナタに変える本なのである。

脳の中では化学反応が起こっている。既存の知識と、新しく入ってきた知識が時間が経過する事によって結びつき、新たな発想や価値観、考えが生まれるのだ。

コレを否定すると、あなた達はいつまでたっても人の考えをそのままオウムのように言う事しかできない。どんなに短くとも半年前から対策を立てる。最高なのは2〜3年前だが、それが無理でも1年は前から対策を立てるのが合格の秘訣だ。

## ■ 小論文で落ちる人、合格する人

小論文は怖い。小論文なんてやってる暇が無いと言っているあなた。落ちる可能性がある。せっかく勉強して他の科目でいい点数を取っても、小論文で逆転されることもある。

逆がいい面もある。10点日本史で上げるのは大変だが、小論文で10点上げるのは非常に簡単だ。まだ小論文の対策をしっかりしていないなら本書を読むだけで10点くらいはすぐに上がるだろう。小論文で落ちる人というのは小論文には勉強の方法が無いと思っている人だ。あっても少ないと思っっている。テクニクも少ないと思っっている人である。

小論文で合格する人は合理的な学習方法があると確信している人だ。そして多くのテクニクも使いこなせる状態にしておく。小論文で30点差をつけられたら、英語や日本史で30点稼がなければならぬ。他の受験生も勉強をがんばっているとすれば、これはほとんど絶望的な数字である。複数の科目を学習する時に大切なのはどれだけの時間を投じてどれだけの点数があるかという発想だ。小論文はこのリターンが多い。

## ■ コストパフォーマンスが抜群にいい科目

あなたが今、もし英語も勉強しないといけないし、日本史も勉強しないといけないし、古文も



第7章 実力UPの練習問題と解説	第6章 テクニック編	第5章 書き方編	第4章 アウトプット編	第3章 インプット編	第2章 調査分析	第1章 予備知識
---------------------	---------------	-------------	----------------	---------------	-------------	-------------

科目	平均点	点のばらつき	投資時間数	合計平均点
英語 (A君)	65	(60 ~ 75)	500時間	195
日本語	60	(55 ~ 65)	400時間	

さらにいいのは、英語は誰でも勉強しているから差がつきにくいのに対し、小論文はなめられているので対策をきちんとしている学生が少なく、差がつきやすい。受験というのは、競争試験だ。国家試験のように、一定の点数を取れば合格というわけではない。競争において重要なのは、他人と同じ点ではなく、違いである、差こそが重要なのである。イメージ的にそれを証明しよう。2年間の内に、1000時間の勉強時間があったとする。

や英語のように力が落ちにくい。

漢文も……、と思っているなら、一体何に悩んでいるか考えてみて欲しい。時間が無い？ 面倒くさい？ 分りにくい？

小論文なら、時間もそんなにかけずに、面倒くさくもなく、非常に分かり易い。それなのに小論文の勉強をやらないなんて完全にどうかしている。(受験科目にあるなら)小論文のおいしさは、早めの学習が、効くという事だ。

日本史は後回しにするのも1つの手だ！ と誰かが言っているが、賛否両論で意見が分かれていますところがある。しかし小論文は、意見が分かれていない。理解型の記憶が中心なので、数学や英語のように力が落ちにくい。

小論文	40	65	75	70
小論文	(35 ~ 45)	(60 ~ 70)	(70 ~ 80)	(65 ~ 75)
20時間	4 4 0時間	5 4 0時間	1 0 0時間	
	1 8 0			

同じ1000時間勉強してもその配分次第でA君の圧勝である。ほとんどの受験生がB君のよ  
うな学習時間投資をしていないだろうか？ これでは、何の為にがんばるのか全く分からない。

非常に大きな損をしているのだ。こんな風になるというのは乱暴かもしれないが、十分ありう  
る話だと私は思っている。英語や社会系の科目は範囲が広く、一定のレベルからは伸びにくい科  
目だからだ。

小論文は時間がある程度かければ、必ず伸びる科目だ。今まではその正しい伸ばし方がほとん  
ど語られてこなかっただけである。今すぐ小論文の準備を始めよう。

素直で真面目な学生がバカを見る理由 その4

## 論理も型も大切だが本質が最重要

合格へ	
第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

## 【大学の教授はウンザリじゃない】

もしあなたが大学の教授だとしよう。1日に500枚くらいの答案を見ていて、同じ事が書かれていたら……。また、この書き方が……。自分の考え無いの？ この子、えーとね。このくらの点。えい！と思うだろう。ウンザリしてしまうのである（誤解が無いように言っておくが、型を用いる事を小論文の世界で提唱したH氏は、革命的な貢献を受験業界に対して実行した。残念なのはあまりにも氏の提唱する方法論がすばらしく、強力であり、広まった為に、その使い方が一人歩きをしてしまったという事である。つまり恐らくはH氏自身が制御できないほどに、間違った使われ方が横行してしまった。分かり易かったがゆえに、それが裏目に出てしまい、思惑と違う方向で使われるケースが多かったのではないかと、私は考えている）。

小論文に型を用いるのは大賛成だが、私は型というのはその根底に流れる本質が大切だと思っている。武道などでは、まず型から入る。素人がいきなりオリジナル溢れる技を披露するのではなく、型を覚える事から入り、そして熟練する段階でその型を捨て、破り、さらに上のレベルを目指すのである。

しかし、型というのはなぜあるのだろうか？ 多くの場合、その型が優れているからである。否、もっと言えば、その型の本質が優れていると言ってもいいだろう。

例えば空手にはサンチンという立ち方がある。内側にひざを入れ、安定した体勢から突きを打てるようにこのサンチンという型は生み出された。船の上の不安定な場所でも戦いやすいようにする為である。

このサンチンという姿勢は型である。そして、安定した体勢、姿勢という事が本質である。まず本質があり、型が生まれている。型があつて本質があるわけではない。つまりどちらかと言えば、重要なのは本質であつて型ではない。

しかし多くの学生は形だけを真似してしまい、無理にその形に従おうとする。その結果、不自然で説得力も魅力も無い優等生な文章になってしまうのである。例えば空手で言えば、見た目はなんとなく悪くないが、覇気が無い、そんな型になってしまう。意味はなんなのか？ サンチンを使うなら、安定したいという気持ちと表情、気迫となつてオーラが出るほどにそれがにじみ出て表れるというのが理想だ。

その本質を理解している時、初めてサンチンという立ち方は意味を持ち、足の指先一本まで力の加わり方が変わるのである。そうすればサンチンという立ち方（型）は威力を増し、大きな力となる。すなわち、小論文においてもっとも重要なのは、どちらかと言えば、型ではなく本質なのである（この事は、型が役に立たないという事ではない）。

## ■ 小論文の本質とは？

### 【誤解されている小論文の本質】

ほとんどの小論文の指導では相手を論理的に説得するものだという意味の事が書かれている。しかしそれは間違いだ。

合格へ	
第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

小論文は論理的に相手を説得するものであってはならない。何？ 何バカな事を言ってるの？ あんたアホちゃう？ と思ったのではないだろうか？

どこの世界の国語の教師が、小論文の指導で論理的な説得をしてはならないと言うだろうか？ 論理的に討論に勝つように書けと指導しているのではないか？ 重要な事を教えよう。言葉の限界というのは論理にある。だから論理の世界は不完全で論理に頼ってはならない。これが、相手を論理的に説き伏せてはならない理由である。

論理に勝って勝負に負ける。論理に勝って試験に落ちる。

ではどうすればいいのか？ 論理は不完全なのだから極めてイメージ的に言おう。小論文は相手を屈服させるのではなく、相手がニコニコと微笑んで握手を求めてくるように書くものである。これが全てだ。

はあ———?????

オイオイオイオイ!!

ここにバカがいますよお———!!

……、と心の中で思われているかもしれない。でも真実なのだから仕方がない。理屈では人は動かない。心で動くのである。

例えばあなたがケンカをした時の事を思い出してほしい。お互い理屈でああだこうだと言うけど、全く仲直りできない。しまいには泣きだしてしまふ。どこかに行ってしまう。

ケンカの相手は、いかに自分が正しくてあなたがまちがっているかを大声で叫ぶものだ。どち

らも一歩も引かない。どちらの意見も筋がとおっている場合もある。しかしうまくいかない。

ではどうすれば相手が折れるかを教えよう。『ごめんな……』と言うのである。『俺にも悪いところがあった』と言う。

そうすると、相手はどう言うか？ 相手も『ごめん』と言うか、あるいは、何も言わなくてもあなたを多くの場合受け入れる。ごめん、というのには論理ではない。それなのに、百通りの説得よりも効果があった。これはつまり……ニコニコ顔で握手である。これが、つまり……小論文の『本質』なのである。型ではない。

私は今あなたに型を1つも教えていない。しかしこの瞬間にあなたの頭に何かスイッチが入り、小論文の得点が大きく上がった。いったいどれほど私が今言った事が重要か分かってもらえただろうか？ 本質だから威力があるのである。今ご紹介した本質的な部分の詳しい解説は後ほど行う事にしよう。今あなたは大きな武器を手に入れた。

小論文の試験は1000字などの字数制限がある。

結論から言えば、いかに難しい課題であろうと、この1000字を必死で埋めるようでは点数は低い。1000字がきつくてきつくて仕方がないくらいに書くべき事がある状態が理想だ。この状態にある時、字数を削る事ができる意味は大きい。あなたは百通りの説得よりもたった一言の方が力がある事を知ったのである。小論文に熟練すればするほど、この意味の大きさをあなたは知るだろう。

なぜニコニコ顔で握手なのだろうか？ いくら論理が不完全だからと言っても論理的な説明が

第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

ほしだいだろう。ちなみにその理由は少なくとも5つは今私の頭に浮かんだところである。それらの説明はこの本の最後の方で話そう。なんでかって？ そりゃその方がいいからだよ。本には構成というものがある。理解をしつかりする為にあなた達が、得をする構成にするから、最後の方で話すわけだ。

大きな理由を挙げるとすれば、それは小論文が論文の小さいバージョンであり（少し後で詳しく話す）論文というのは、公、つまり多くの人に聞いてもらう事を前提としているからだ。公というのは、難しく考えなくていい。私達国民という事だ。世界中の人と言ってもいいかもしれない。これがどう関係してくるかと言うと、ケンカごしに、怒鳴るのではなく、冷静に、議論するというスタンスを取る必要があるという事である。

議論というのは公の（つまり多くの人の）利益を前提としている。自分だけよければいいなら、武器をとって脅して、何もかも奪い取るだろう。そういう世界には議論や、論理など必要ない。そうではなく、公を前提としているので、和をつくるニコニコ顔で握手という事が大切なのである。これが前提となる。詭弁という言葉はこの反対で、論理学では、人を欺き、誘導する弁論の事だ。

ニコニコ顔で握手という事の意味の1つはこれだ。

予言をしよう。今私が言った事を否定する人が出てくるだろう。

論理的にね。これを詭弁という。ハッハッハーと笑い事ではない（あなたにとつてとても大切な事は私は真剣に言っている）。

だから論理は不完全なのである。

もう一度ゆっくり言う。だ・か・ら不完全なのだ。

論理的過ぎる人間は多くの場合使い物にならない。口だけ達者で現実の世界では通用しない事が多い。事例はずつと後で挙げよう。論理が不完全である事を論理的にもイメージ的にも解説していく。

小論文というのは、なかなか評価が分かれてなんだか点数が安定しない、あるいは、採点する人によって点数が違ふと思われる所があるが、そんな事はない。本質を理解して書けば相手がうなる文章を書く事ができる。

断っておくが、この文章を読んで分かる通り、私は文章のレベルは低い。もうどうにもならんぐらいに低い。学問的でアカデミックな文章は書けと言われれば少しくらいなら書けるが苦手だ。文章の才能も無い。

論理？ 論理的な頭も無い。

でも合格する自信は満ち溢れている。

なぜならば、このような小論文の本質を理解し、その本質に従った方法論を数多く持っているからである。

あなたは本質を理解した上で型を使いこなし、そして、本質に従ったテクニクや知識を身につけていくことで大きく小論文の点数を増やし、合格点を取ることができるのである。

第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

素直で真面目な学生がバカを見る理由 その5

**小論文の点数、実はここで差がついていた。**  
**小論文で本当に求められているもの**

小論文は作文ではないから、構成を守って書けばだいたい得点できて、合格答案になる。こういう主張も間違いではないが、それが全てだと思ふと、大きく損をする。せこいことをお話しする。

小論文で本当に求められているものは？ と聞かれれば、私は内容だと言いたい。恐らくだが、小論文の添削と言うものは、最後に行われる。つまり、全部の文章を読んでから点数をつけるわけだ。

もし仮に、①内容②文章力③構成力、という配点基準があったとしても、最後まで読み進めずに途中で構成力の点数を採点官がメモするというのは非常に考えにくい。

つまり、採点官が読み終わった時の漠然としたイメージで、(いい文章だった)とか、(かつこつた文章だった)とか、(背伸びはしているかもしれないが、いい内容だ)とか、(これは面白い視点だ。コイツはなかなか面白い奴だ)とか、(高校生でここまで書ける奴は他にはなかなかいないぞ、将来楽しみだ)とか思っているわけだ。

この段階で、30点満点中、28点だとか25点なんていうのはほとんどその時の気分次第なのではないか？ と私は考える。細かい点数は公平性に欠けるといふ理由から、A、B、Cという3段階か、4段階で採点されているという可能性も十分あるが、どちらにせよBにしようかAにしようか迷った時に（えいやっ）と決めるんならかの理由があるはずだ。

この理由になるのが、多くの場合、実は内容なのではないかというのが私の推察だ。構成力や、文章力が、内容の配点に影響する事は考えにくいだが、内容のよしあしが、他の配点に影響する事は十分にありうる。

ある学者によれば、人間の脳というのはそこまで論理的にはできていないらしい。

つまりどういふことかといえば、非常に感情の影響を受け易いという事である。まずなんらかの感情が生まれてから、論理を後付する。例えば、いい印象の文章であるとか、自分が賛同した文章の場合は、頭の中にいいイメージがある。

その段階で、AにするかBにするかを迷ってAにする際に、頭の中でなぜAにするのか？ を無意識に考えるはずだが、その理由はどうでもいいのである。

ただそうしたいからAにするのであって、その理由を正当化する為に人間は理屈で自分のその行為を正当化する為に理由を論理的に作るわけだ。

この部分がよく書いていたからAとかさういふ具合である。

もちろん全てのケースでさうだとは言わないが、このように一瞬の内に判断される事は現実には多いだろう。



第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

## 言葉のイメージと広がり に注意せよ 女の子が『好き』と言ったら

言葉にはイメージに広がりがある。身近な例でいこう。女の子が『好き』と言っても、男としてはどんな風に好きなのか全く分からない。

めちゃくちゃに好きなのか？ ちょっぴり好きなのか？ おにいちゃんみたいに好きなのか？ 友達として好きなのか？ もしかしてキスしてもいいくらい好きなのか？

男はドキドキしてしまうだろう。

乙女心は複雑だ。勘違いして、チューしようとしたらほつたをぶたれてしまうかもしれない。少しこれは極端な例かもしれないが、これと同じような事がいろんな時の主張で起こる。

例えば、私が『勉強には効率が最も重要です』と言うと、まるで私が人生で大切なのは効率だけだと言わんばかりにいろんな人が批判してきたりする。

私が主張しているのは、試験勉強をしている学生にとって、限られた時間で結果を出す為には効率が大切だと言っているのだから、人生で効率的でないものは排除すればいいと言っているわけではない。非効率的なものの中にこそ大切な事があると思っっているし、私の人生哲学は、効率などとは無縁である。

それからこんな事もあった。○○すれば多くの受験生を尻目に、勝つ事ができるだろう、と主

張したときに、『勝つ事がそんなに大切なんですか?』と言われるわけだ。

これはある女性から浴びた批判だった。

私の気持ちとしては正直（いつそんな事言ったの?）という具合だが、そんな事はおかまいなしである。

私は勝つ事が大切だとは一言だって言っていない。それにもかかわらずスゴイ剣幕で怒っているのである。それどころか軽蔑されている。小論文なら不合格。

こういう批判は実は感情から生まれている。ある文章の一部の言葉が欠けているだけで、勘違いされているわけだ。

言葉のイメージには広がりがあるからである。

勝つという言葉にあまり反応しない人もいれば、勝つという事に関して嫌な感情を条件反射的に形成してしまう人がいるわけだ。

だからこそこのイメージの広がりを私達は意識しなければならない。そしてこのような言葉を避けるのである。人が人を批判する時の理由は後付けである。感情がありその感情を正当化する為に理由をつける。その感情はその人の価値観に基づいているからやっつかいだ。

ではどうすればいいか? 危険なキーワードを避ける事だ。

危険なキーワードというのは、人によって、受ける印象が180度違うような言葉だ。ここでお話ししたことは小論文の試験において最も根幹を成す決定的に重要な知識である。どうすれば試験官が手を差し出して、『合格だ』というような、共感を生む文章を書くことができるかは、

合格へ	
第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニク編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

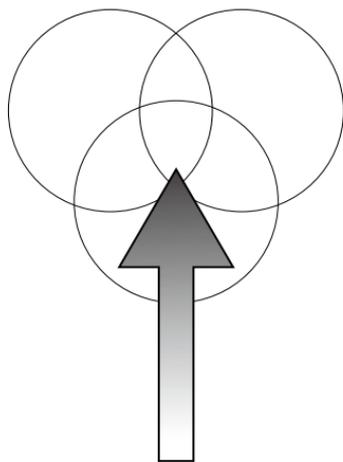
まずこの知識があり、説明する事ができる。書き方については後で詳述する。

さて、ここまで読んだ人なら次の少し分かりにくい文章も、かなり実感を持って理解できるはずだ。世界的に有名なベストセラー作家でもある、コヴィー博士の言葉を引用しよう（7つの習慣より引用）。

人は物事があるがままに、つまり客観的に見ていると思っ込んでいるのが常である。しかし私達は世界があるがままに見ているのではなく、私達のあるがままに（条件付けされたままに）世界を見ているのだ。物事を説明しようとする、結果的に自分自身、自分の知覚、自分のパラダイムを説明しているに過ぎない。そして自分の意見に相手が賛同しなとなれば、すぐにその人が間違ってしまうと思っ込んでしまう。（中略）

誠意があり、かつ知力に恵まれた人たちでも、それぞれの経験というレンズ（パラダイム）を通して同じ事実について異なる見方をするのである。

ここで言うところの『条件付け』が、人によって同じ言葉でも違うイメージを持ってしまっ理由だ。極めて重要な部分である。



みんなが問題なく共感できる

**YES！ そうだ！**

と言える主張をしようとする事が大切。

1つの単語でイメージが違うという事は、2つの単語からなるフレーズはもっとイメージが違う。5つくらいの単語からなる文章はもっとイメージが違う。

そして、小論文1000語によって形成される主張はもっとイメージが人によって違う。

だからこそ上の図の様に主張する必要がある。

素直で真面目なあなたがバカを見ない為の、小論文の力のつけ方とは？

## ■ 小論文の技術

小論文ではどんな力をつけたらいいのか分からない、勉強方法が分からないという声をよく聞く。これでは合格する事はかなり運がよくなければできないだろう。これから小論文の技術はどのような力によって成り立っているのかについて説明しよう。



第7章 実力UPの練習問題と解説	第6章 テクニック編	第5章 書き方編	第4章 アウトプット編	第3章 インプット編	第2章 調査分析	第1章 予備知識
---------------------	---------------	-------------	----------------	---------------	-------------	-------------

【知識量】

ある人は、『小論文はとにかく新聞と本を読んで、書けばよろしい』と言うかもしれないが、漠然とすぎていて、どう対処すればいいのか学生は混乱してしまっただろう。ある学生は、ひたすらある文章を丸暗記しようとしたりするが、これはいけない。人の言葉をそのまま使うのは盗作だ。これを自分で理解して、噛み砕いて、そして自分の知識とつなげて自分の言葉で説明して主張できるようにするのが、小論文の勉強だ。

もちろん最初からできるわけがないから安心してほしい。でも本書の通りに実行すれば大人顔負けの意見を主張できるようになる。例えば、日本の財政再建について、主張できるようになる。理想の医療のあり方について主張できるようになる。アメリカの最先端の事例を引用してハッとさせる意見を言えるようになる。

ちょっとイメージしてみてほしい。茶髪で、ちゃらちゃらした学生がいきなりそんな事を言ったら、先生や採点官はびっくりするだろう。ワクワクしてこないだろうか？ へおっこいつは、意外と大人なんだな〜びっくりしたな〜)と思ってもらえるだろう。

小論文は大人の世界への入り口みたないものだ。何も社会問題について主張できないといくら勉強しても子供だなあ〜と思われるてしまう。大人の世界に入る為の小論文の技術にはどんな要素があるのか見てみよう。

知識には大きく分けると、理解型の知識と暗記型の知識がある。理解型というのは、モノゴト

の関係や、重要なポイントが整理されているイメージの事だ

暗記型の知識と言うのは歴史で言えば正確な年号だとか、細かい名前等だ。小論文には両方必要なので、社会の勉強と同じように勉強する必要がある。そしてたくさん覚えておく事が非常に大切だ。これが切り札となる。

### 【理解型の知識の吸収方法】

理解型の知識の吸収方法はズバリ、マインドマップ（メモリーツリー）という手法だ。トニーブザン氏が世界に広めた手法で私は10年以上前にある東大生が紹介する書籍『頭が良くなる本』という題名の書籍で知った。モノゴトの関係や、つながり、ポイントを吸収していくには抜群の効果を発揮する。

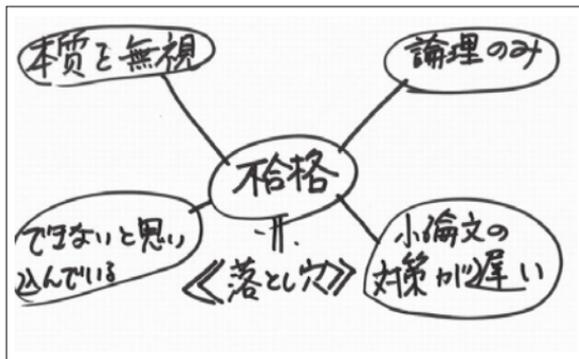
なぜこの手法が効果的かといえば、このノートを見直す時間が非常に短くて済むからである。私の場合はマルで囲む事で一目で目に要点が入るようにする亜流の手法をとっている。

通常はマインドマップは1枚に収めるが、1つの枝を分かれさせる時には、別のページに記入するわけだ。ページはいくら増えてもいい。最終的には頭の中で整理されてこそ意味がある。綺麗なノートを作る事が目的ではなく、頭の中にきちんとインプットする事が目的だからだ。

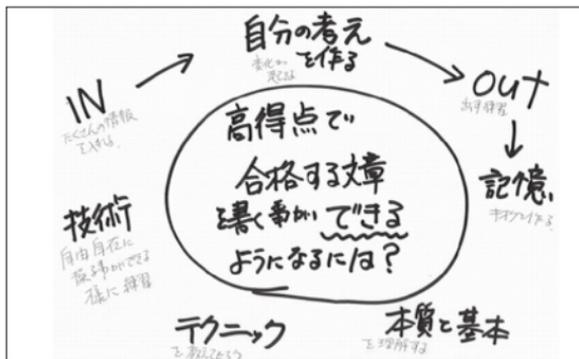
その為には、1つのコンセプトで情報が目に入ってきてイメージと同時に焼き付けられる方がいいというのが私の意見だが、人によって（あるいは目的によって）意見の違いが恐らくあるだろう。私の場合は速読とマインドマップを掛け合わせることを前提としているので、このように



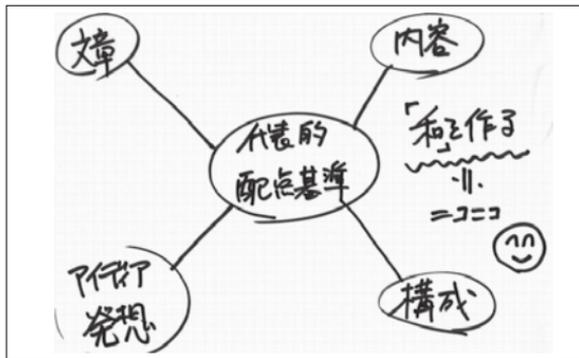
第7章	実力UPの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識



(例1)



(例2)



(例3)

1 コンセプトにつき1ページというルールを自分で作っている。そうすれば何百ページあるとも、条件反射的に脳がコンセプトやつながりをそのまま吸収するように処理するからだ。あらかじめルールを決めておけば、目から入った情報をどうという類のものかを判別するような手間が省ける。

例1、2、3のようなノートを作っていく（私の場合、速読処理する為簡略化する）。そして、このノートを繰り返し見ることが大切だ。すると頭の中でちょっとした変化が起きてくる。これについてはインプット編で詳しく見ていこう。

### 【暗記型の知識】

暗記型の知識が小論文には必要だ。無いよりはあった方が点数が増すだろう。細かい事例や細かい数字は何よりも説得力を増す。

そして知識量を採点官にアピールする絶好のチャンスである。他の受験生は細かい数字を挙げない。だから挙げるのである。

注意点は、無理に使わない事だ。無理に使おうとすると、多くの場合失敗する。

ネタというのは、主張すべき方向と一致しない事もあるので、そういう場合に無理やりに組み込もうとすると、主張が進もうとする方向とあさってのものを組み込んで、文章がばらばらになる事がある。

暗記型の知識の収集方法で最もお勧めなのは京大式カードだ。

小論文のネタは書き出すのが基本だ。

そして新聞の切り抜きを作ることがあったとしてもそれはあくまでも1つの理解型のネタとしてストックするべきだろう。暗記型の知識は部分的なものなので、たいていの場合には抜き出す事になる。



京大式カード

第7章  
実力UPの練習問題と解説

第6章  
テクニック編

第5章  
書き方編

第4章  
アウトプット編

第3章  
インプット編

第2章  
調査分析

第1章  
予備知識

2院制について

イメージ

健全な二院制の  
機能にのびめて

衆議院  
を  
の統称

代議制民主主義が  
活性化できる。

---

ラッシュ國務長官が言うバラニオブパワー  
もあてはまる。

私は暗記をする時にカードはあまりお勧めしない。大量の暗記をするのには向いていないからだ。しかし300や500の暗記なら、他の方法に比べていったん記憶として引き出すことができず、きる状態にするだけなら速い。カードの特徴はこの状態まで持つていくのが最短である事だ。しかし500を超えるあたりからは他の方法を検討する必要がある。忘れたものを覚えなおす作業が必要になってくるからなのだが、この本は記憶の本ではないので、ここは割愛しよう。暗記型の知識は京大式カードで、問題形式にしてどんどん書き込んでいこう。

### 【読解力】

小論文の力は多くの場合、書き方にあると思われる事が多いが、実は読解力も大きなポイントだ。国語が苦手でもOK。なぜなら小論文の読み取りは、国語のように深いことは聞かれない。どちらかと言えば、英語の読み取りに近い。英語はもっと嫌いなんだよ！〜と思ったかもしれないが、ちょっとがまんして聞いて欲しい。要するに、何を主張しているのか？ という部分を捉えるだけでいいのだ。広い意味での日本語力のようなものはずいぶん必要ないんだ。小論文の読み取りに関して重要なのは、主に以下の点だ。

#### ●小論文の読み取りPOINT

- ・話の中心、テーマは何か？
- ・賛成と言っているのか、反対と言っているのか？

第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識

合格へ  
 けたらちよっとおかし。いや、うらやましい（中には天才的なやつがいるんだよなあ）。

という4段階で養われる。いきなり書き方を教えてもらってスラスラ書けるものではない。書

事ができるかを中心に紹介していく。大きく分けて、書く力は、

## 【書く力】

言うまでも無く、小論文の力の中でも最重要の力だ。この本ではこの書く力をどうすれば養うことができるかを中心に紹介していく。大きく分けて、書く力は、

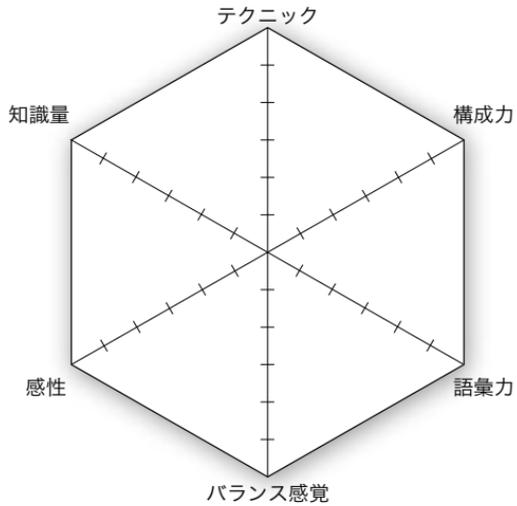
- 1 調査分析
- 2 インプット
- 3 書き方の講義を受ける
- 4 アウトプット（実際に書いてみる）

- ・ 反対や賛成の理由（論拠）は何なのか？
- ・ その論拠は正しいものか？

・ そのように主張する前提（目的）は何なのか？

大まかに言えばこの5つくらいを漠然とイメージ的にあるいは順番に見ていけば、大きくはずす事はまずない。なんだか妙に説得力がある主張だなあと思っても、5番目の、主張の前提になっている事に注目すれば、ごまかされる事が格段に少なくなるのでこれは特に覚えておこう。この『主張の前提』という言葉は意味が分からないかもしれないので、6章で詳しく解説する。今は漠然と覚えて読み進めよう。

## 書く能力のグラフ



実は書く力は上のようにおおまかに分類できる。

自分の実力を多角的に分析したら、このようになったという場合は、足りないものを補っていくという発想が大切だ。

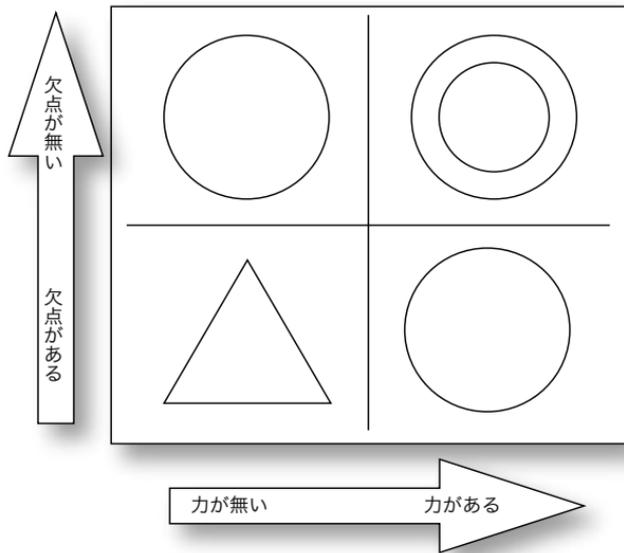
## 2種類の問題解決アプローチ

モノゴトの問題を解決するには大きく分けて、

- 理想的な状態を目指す解決方法
- 問題点の原因を解決する解決方法 の2種類がある。

# 実力UP

合格へ	
第7章	実力アップの練習問題と解説
第6章	テクニック編
第5章	書き方編
第4章	アウトプット編
第3章	インプット編
第2章	調査分析
第1章	予備知識



このような状態を視覚的に表すと左の図のようになる。

そうすると、小論文の力をつけるにはとにかく前にだけ進み続けなければならないというわけではない事に気づくだろう。

重要なのはこの2つの方向へ力を向けることである。

なぜうまく書けないのかを分析して、それを叩き潰す事も大きく実力をつける道である。例えばなんとしても落としたい女の子がいるとする。デートに誘うと、一応OKしてくれるけど、なんだかあんまり反応が良くない。なんでだ！ ちくしょー——、と思って最新のヘアスタイルにしてみたり、カッコいい服を着てみたり、カッコいい音楽を一緒に聴いたり『いい男』度を上げる努力ばかりしていたけど、その女の子は実はヒゲをは

やしていると生理的に受け付けないというタイプだったとしよう。そういう場合はいろいろするよりも、とにかくヒゲをそればいいのだ。

それだけで、受け入れてもらえる可能性はグッと上がる（合格する可能性はグッと上がる）。もしかしたらかっこいいのに単に体臭が問題だったのかもかもしれない、その場合はせっかくなにかいいのにおいだけで強烈にイメージダウンだ。それなら香水を振れば、一気にイメージアップ間違いはない。

このように弱点を克服するように対処する事で大きく前進できる。

### 【感性】

小論文の力で感性が大切などという主張を私は見た事がないが、この感性という言葉を私は非常に広い意味で使っている。例えば、花が咲いているのを見て、感じる感覚だとか、青い空を見ている感じる感覚、小論文のテーマになる社会問題を聞いて感じる感覚、こういうあらゆる感覚を含めて私は感覚的な感性が小論文に重要だと考えている。感性から直感が生まれる為に直感について少しだけご説明したい。

『仮説思考』という本の著者である、内田氏の書籍から次のことを引用したい。

羽生は「直感の七割は正しい」ともいつている。直感とは、それまでの対局の経験の積み重ねから、「こういうケースの場合はこう対応したほうがいい」という無意識の流れに沿って